

旅館業における高温・低温物との接触災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	17～ 18	3階センター調理ペストリー厨房に於いて、ガス台で調理中の沸騰したシロップを別容器に移す際、シロップがはねて右前腕部と両側内頰に火傷を負った。	22	500 ～ 999
2	8～9	朝食の対応中にコーヒーの出し終えた粉を捨てようとして移動していた際に、誤って鍋にぶつけてしまい、反動で左腕、手首付近にかけてしまい火傷を負ってしまった。	55	10 ～ 29
2	18～19	カラメルソースを作成中に誤って火にかかっている鍋をひっくり返してしまい、ソースが右手にかかって受傷した。	25	300 ～ 499
2	19～20	派遣先にて、味噌汁をお客様に提供する際に、IHヒーターで温めてた寸胴のラップを剥がした時に、噴き出して来た上記が手にかかり火傷をしてしまった。	24	100 ～ 299
3	18～19	レストランにて夕食時、お客様へ鍋を提供する際、あやまって鍋を自分の右手にかけてしまい火傷した。	19	30 ～ 49
5	13～ 14	ホテル内レストラン厨房で客用コーヒーを大量用意中、コーヒーメーカーのドリッパーが空であると誤認し、あふれていた熱いコーヒーがドリッパーを手前に引いたことにより、左手甲・指部分にかかり火傷を負った。	65	100 ～ 299
6	7～8	ホテル調理場で、寸胴に入った汁物を冷ますために水をはったシンクに入れようと2人で持ち上げた時、バランスが崩れ、熱い汁が右手の甲から腕にかかり、皮がむ	18	100 ～

		けた。		299
7	9~10	17階レストラン厨房に於いて鰻の湯通しをしようとお湯を入れた大きなボールを足元に置き台にのっていけすから鰻を取り出そうとした際、鰻が暴れそれに驚き台から足を踏み外しボールの中に右足を突っ込み火傷した。	30	100 ~ 299
7	19~20	手に持った器に冷めきらない時に器に熱湯を入れたら器の底面が溶けて熱湯が両足にかかった。ナイロン足袋を履いていたものがきつくて脱げず貼りついてしまった。器が冷蔵庫から出して冷たかったものに熱湯が入り弱くなったため。	55	30 ~ 49
7	19~20	厨房に出ていた鍋を洗い場に移動させる際、鍋の取手を持ったところ、片方だけ熱くなっていたので、取っ手を持った左手（人差し指・中指・薬指）を火傷した。	63	30 ~ 49
7	8~9	地下1階レストランにて、コーヒーマシンを使用しコーヒーを抽出しようとしたときに、まだマシーンが抽出中だったことに気づかずにフィルターカバーを外してしまい、左手人差し指から薬指にかけてマシーン内の熱湯がかかってしまった。	19	100 ~ 299
7	20~ 21	ウォーマーからグラタンの入った銀器を取り出そうとした際に、ウォーマー内の棚から銀器が滑り出てきて、その銀器が両手の甲（指の付け根辺り）に当たり火傷を負った。	24	300 ~ 499
11	17~ 18	館内9階にあるお食事処のパントリーにて、沸騰した味噌汁を入れた鍋（やかん）の蓋が左手に滑り落ちてきたため火傷を負った。	25	50 ~ 99
12	14~15	店の厨房内にて、茹で上がった卵の入った片手鍋をシンクに移動させようとした際、両手で持ったが重過ぎたため鍋が傾き、熱湯が左足の甲にかかり熱傷した。	27	10 ~ 29
12	14~15	客室の空調より漏水しているとの報告を受け、対応することになった。バルブの交換が必要とのことで、大元のバルブで止水するために閉めたバルブが間違っており、そのあと気がつかずに漏水していたバルブを外したところ、水圧でバルブが飛んだ。咄嗟に、噴出した熱湯を手で止めようとしたため、両手に火傷を負った。	63	50 ~ 99
		3F宴会場で朝食準備中、ホットカートのコンセントと配電盤から出ている延長		

12	67	<p>コードを接続するため、配電盤から出ているコードを左手に持ち、ホットカートのコードを右手に持って接続作業をしていたところ、「バチッ」と大きな音がした。配電盤側のコードがショートして、左手掌から左上肢にかけ帯電（200V）および火傷した。</p>	<p>300 21 ～ 499</p>
----	----	--	---------------------------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html